

日	時間	事業名	内容	定員
10月 6日(土) 13日(土) 20日(土) 27日(土)	15時00分 ～ 17時00分	子ども広場	「将棋広場」 ～初めての人・少しでも興味を持った人は、気軽に参加してください～ 対 象：おおむね小学1年生～6年生 ※開催日が変更になる場合があります。	なし
10月11日(木)	10時00分 ～ 11時30分	子育てセミナー	「親子体操」～親子で楽しく体を動かそう!～ 講 師：山本尚明氏(体育文化指導協会) 場 所：青少年児童センター体育館 持 物：水筒・タオル・着替え・親子とも体育館シューズ ※定員はありませんが、初めての方は事前に申込が必要です。	なし
10月20日(土)	10時00分 ～ 11時30分	おもしろ教室	「ハロウィンを楽しもう」 ～かぼちゃの小物入れを作ります～ 対 象：幼児と小学生(但し、小学1年生までは、保護者同伴) 持 物：はさみ・のり	15人
10月25日(木)	10時00分 ～ 11時30分	子育てセミナー	「親子体操 運動会バージョン」～親子で楽しく体を動かそう!～ 講 師：山本尚明氏(体育文化指導協会) 場 所：青少年児童センター グラウンド※雨天時は、体育館で行います。 持 物：水筒・タオル・着替え・親子とも体育館シューズ(雨天時) ※定員はありませんが、初めての方は事前に申込が必要です。	なし

## ★青少年児童センター サッカー教室

- ◎サッカー教室開催期間  
平成24年11月から平成25年3月の毎月第1・第3土曜日(計9回の予定)  
※開催日が変更になる場合があります。
- ◎対 象  
一部 小学1年生～2年生の男女 午前 9:00～午前10:30  
二部 小学3年生～6年生の男女 午前10:30～午前12:00

- ◎定 員 一部・二部ともに各60人
- ◎参加費 ひとり 1,800円(受講1000円・保険代800円)

**申込方法：往復はがきで申込んでください。**  
**(10月10日の消印有効)**

### ≪記入方法≫

往復はがき(あて先) 〒583-0883 羽曳野市 向野3-1-33 羽曳野市立 青少年児童センター サッカー教室 申込み係	復信はがき(返信用) 申込者の 〒 住所 氏名(保護者名) サッカー教室受講希望 受講希望者の 氏名(ふりがな)・ 生年月日・性別 住所・電話番号・ 学校名・学年・ 保護者名
---	--

- 注1) 希望者1人につき1枚で申し込んでください。
- 注2) 申込み多数の場合、抽選の日時・場所を記入し連絡いたします。
- 注3) 直接窓口にはがきを持参していただいても可能です。

◎駐車場について  
当センターの駐車スペースは、数に限りがありますので、駐車できない場合があります。あらかじめご了承ください。

■お問い合わせは、青少年児童センター ☎952-0032 まで

## サラダボール

### 『こだまでしょうか』

「遊ぼう」っていうと  
「遊ぼう」っていう。  
「馬鹿」っていうと  
「馬鹿」っていう。  
「もう遊ばない」っていうと  
「遊ばない」っていう。  
そうして、あとで さみしくなって、  
「ごめんね」っていうと  
「ごめんね」っていう。  
こだまでしょうか。  
いいえ、誰でも。  
この詩は、大正末期から昭和初期にかけて活躍し、26歳の若さでこの世を去った童謡詩人、金子みすずさんの詩『こだまでしょうか』です。東日本大震災の後、テレビのコマーシャルで繰り返し流されたので、皆さんもよくご存知かもしれません。

この夏、金子みすずさんが生まれ育った、山口県長門市の仙崎を訪ねました。仙崎の町を散策して行きましたら、地元の中学生在が、見ず知らずの私に向かって「おはようございます」と挨拶をしてくれました。私は少なからず驚きましたが、「おはようございます」と、きっちりとこだまして返しました。都会では、中学生在が見知らぬ人に対して挨拶をするという光景を目にすることが少なくなったように思います。自然に、礼儀正しく挨拶ができるということは、本当に素晴らしいことだと思います。このように挨拶ができる子どもたちを育てているのは、家庭環境によるものなのでしょうか。地域によるものなのでしょうか。あるいはまた、仙崎という三方を海に囲まれた自然の豊かな土壌が、育てているのでしょうか。  
この中学生在が「おはようございます」と挨拶をしてくれた時、もし、私が

「おはよう」と返したならば、その中学生は「大人は偉そうに上から見おろして言葉をへらして返してきた」と思ったのかもしれませんが。最近では、自分、他人は他人と分離して考えてしまう傾向が強まったと言われていますが、温かい言葉がこだまし合うことで、温かい心の連鎖が生まれ、お互いを尊重し、支え合う気持ちが高まるように思います。東日本大震災があった今こそ、人と人がこだまし合い、尊重し合い、支え合う必要があるのではないのでしょうか。これからも、こだまし合うことの大切さを思い、きっちりこだますることが出来る大人でありたいと感じました。  
その日の仙崎の町は真夏日でしたが、うだるような暑さの中、仙崎の自然とともに中学生的の言葉によって、私に心地よい風が吹きました。

じんけんすいしん、か  
人権推進課